

事業所名

児童発達支援センター姫島こども園

支援プログラム

作成日

7年

1月

20日

法人（事業所）理念	・本人主体の支援 ・家族支援 ・ライフサイクル支援					
支援方針	・本人の発達や障がいに応じた支援により、基本的信頼関係が形成され、コミュニケーションの力や他児との関わり方を身に付けられるように援助します。 ・保護者が我が子の立場に立った理解に努め、親子関係・きょうだい関係が良くなるように家庭、関係機関と連携を取りながら支援します。					
営業時間	8時	45分	17時	30分	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	・日々の連絡帳により、家庭と本人の様子を共有（睡眠時間、食事量、排便の有無、検温等） ・提供する給食の進み具合の把握。 ・月1回の身体測定、年2回の内科検診と年1回の歯科検診。随時、健康面での相談にのっている。				
	運動・感覚	・日々、遊びの中に粗大運動、微細運動を取り入れている（園庭での乗り物、トランポリン、巧技台、はしご、坂道、バランスボード、鉄棒等の粗大運動。紐通し、ペグさし、型はめ、ブロック等の微細運動） ・運動発達の講師に来園してもらい、運動面ほか、発達面からの助言、指導を2ヶ月に1回実施している。				
	認知・行動	・子ども1人1人に添った興味を把握し、好きなことに取り組みながら、興味や関心を広げられるようにしている（数字、文字、音楽、乗り物、クッキング、感触遊び等）。 ・子どもの困った行動、理解の難しい行動に対しては、子どもの気持ちや立場に立って行動の理解に努めている（自傷、こだわり等）。				
	言語 コミュニケーション	・1クラス10人程度の小集団で過ごしなが、子ども達1人1人の意思表示ができる環境を心がけている。「イヤ」を快く聞き、本人がどうしたいかを確認する。 ・お集まりで手遊びや絵本、歌を取り入れ、楽しく活動できるようにしている。 ・本人の表現がじゅうぶんでない場合に、本人の気持ちを受け止め、推測し、代弁を心がけている。				
	人間関係 社会性	・1クラス10名程度の小集団に4人の担任を配置。大人の援助を受けやすい環境のもと、担任との信頼関係を作り基盤にしている。 ・安心できる担任が間に入りながら、友達との橋渡し、やりとりの支援を行っている。 ・クラス単位で行動しながら、食事、排泄、集団活動に取り組み、社会性を養っている。				
家族支援	・グループ相談、個別相談等で本人や家族、きょうだいの話を聞き、相談にのっている。 ・様々な子育ての問題を解決する家族力、相談力を高める。 ・家族で参加できるさまざまな行事を企画している。			移行支援	・入園に際しては、丁寧にアセスメントを行う。 ・就学、就園については丁寧に引き継ぎを行う。	
地域支援・地域連携	・区役所との連携 ・相談支援事業所、または他の児童発達支援事業所 ・医療機関との情報共有			職員の質の向上	・研修の機会を設けている。（子どもの発達について、虐待、人権、防災等）	
主な行事等	・春の丹波遠足・秋の丹波遠足 ・ファミリーデー ・親子まつり（ミニ運動会） ・夏の比良遠足（湖水浴） ・もちつき					